



◆新型コロナ関係

3年間続いたコロナ感染症は、5月8日から分類が2類から5類に変わると決定されました。

高価な抗ウイルス薬治療やワクチンを有償にするか無償のままか、本当にどこの医療機関でも診ることが可能か、コロナ病床は不要でいいのか、等検討すべき点は多々あると思いますが、行政の指示を待つしかありません。

少し気が早いのですが、この3年間のコロナとの戦いを各施設が記録として残すことが重要だと思っています。今回のコロナ禍は歴史的な事象です。「わが施設かく戦えり」といったテーマで、職員から原稿を募り、1冊の本にできればと考えています。

◆献血にご協力ありがとうございました

1月25日水曜日 この冬一番の寒気が押し寄せ神戸でも5センチの積雪を記録しました。

一時は採血車も採血者も来れるかと危惧しましたが、何とか献血業務ができ、この雪の中でも19人から献血をしていただきました。

日赤の職員の方も、この大雪(神戸にしては)の中、これほどの献血ができたことにとても感謝されていました。



いい人と歩けば祭り
悪いひとと歩けば修行

最後の瞽女(ごぜ) といわれた小林ハルさんの言葉です。3か月で失明し105歳の生涯を閉じるまで想像を絶する苦難に会われたことは想像に難くありません。親も上司も同僚も隣人も選ぶことはできないのが世の常です。

それを、天国と地獄ではなく、祭りと修行に例えられたところが、素晴らしいと思いました。

(瞽女とは日本の女性の盲人芸能者)

◆私の本棚

・ボックス 上下2巻
百田尚樹 講談社文庫

青春のボクシング小説。ヤンチャな天才と真面目な努力家の親友がボクシングを通じて成長していく姿を爽快に描き、まるでテレビドラマをみているように話が進んでいく。

「黄金のバンタム」を書いた著者ならではの、ボクシングの試合での克明な描写が秀逸。一気に読み間違いなし。



慈恵会グループの職員でも
あまり知らない情報です

⑤新須磨病院の創傷センターは日本で最初に来た創傷専門外来である。

ある人の紹介で、2001年に北野先生がアメリカに視察に行ったのが事の発端です。当時、日本では血行障害のある下肢に創ができると切断するしか治療方法がありませんでした。ところが、アメリカではできるだけ血行再建をして下肢救済を図っていたのです。カルチャーショックを受けて帰国した北野先生を中心に、形成外科、血管外科、血管内治療医、臨床検査技師、看護師、義肢装具士などが連携して立ち上げたのが創傷センターです。開設当初は、治療を求めて、東京や九州からも多くの患者さんが来られていました。

今は、全国各地にそのような施設ができて遠方からの患者さんは減っていますが、先日は福井県から患者さんが治療に来られました。

多職種が連携してできるチーム医療の代表的なものであり、横のつながりが希薄な大病院では決してできない治療だと思っています。

神戸で一番
親切で
丁寧で
優しい医療を

